

～実践記録～

1. 学校名： 飯田市立遠山中学校

2. 対象： 全校 33 名
(学年・人数)

3. 活動内容

(1) 活動名 遠山郷を守ろうプロジェクト
【関連活動】遠山三校絆プロジェクト、郷土の舞など

(2) 活動の目標

- ・郷土「遠山郷」の特徴やその良さや課題を知る。
- ・地域の人と交流することを通して郷土愛を深めるとともに、地域貢献のためにできることは何かを考え・実行していく生徒の育成。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 多様性 (多種多様な現象が起きていること) | <input type="checkbox"/> 公平性 (一人ひとりを大切に) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性 (関わりあっている) | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性 (互いに連携・協力すること) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 有限性 (限りがある) | <input type="checkbox"/> 責任制 (責任を持って) |
| <input type="checkbox"/> その他 () | |

②育成する資質・能力

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度 |
| <input type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 | |

(4) 関連する SDG s

11 住み続けられるまちづくりを

15 陸の豊かさを守ろう



(5) 活動の内容

① 遠山郷を守ろうプロジェクト

- ・学校周辺や公共施設の清掃活動

② 地域の方に学ぶ会

- ・農業や趣味など、特定分野で活躍している地域の方を講師に学習をする。

③ 郷土の舞

- ・重要無形民俗文化財「遠山の霜月祭」の舞について学習し、地域に向けて発表する。また、実際に霜月祭に参加する。

④ 遠山三校交流会「遠山三校絆プロジェクト」

- ・過疎化が進む遠山郷に暮らす小中学生が集い、SDGs に関わる学習を通して、未来の郷土のあり方について考える。

⑤ 学有林学習

- ・学校林を活用し、植林などの作業をしながら林業や森林保全について学ぶ。

⑥ 花を贈る活動

- ・生徒会活動で育てた花の寄せ植えを公共施設などに贈る。

①



②



③



④



⑤



⑥



4. 活動の成果

①本校は過疎化が進む遠山郷にある。60歳以上の割合が80%を占める限界集落から通学する貴重な生徒もいる。地域全体の人口動態から推察するとさらに減少が見込まれる。そんな地域で学ぶ本校生徒は郷土愛が強い。生徒会活動としてスタートした「遠山郷を守ろうプロジェクト」は今年で7年目を迎えた。「自分たちが出来ることから始めよう。」を合い言葉にスタートした地域の清掃活動は今も続けている。本年度も道路や公共施設、観光施設の清掃活動を行った。

②地域を盛り上げるためにはまず地域に暮らす人々を知り、関わりを持つことが大切だ。「地域の方に学ぶ会」は、地域の方との交流、コミュニティとの関わりを持つ機会となっている。また、職場体験学習では地元の起業家や働く人たち4～5名を講師に招き、遠山郷で働く意味について学んだ。

③遠山郷に伝わる「遠山の霜月祭」は地域の誇りである。過疎化にともない伝統の継承が地域の課題となっている。学校で行う「郷土の舞」の学習は、伝統の担い手を育む場となっている。保存会の方々が講師として熱心な指導をしてくださり、11月に舞を保護者・地域住民に披露した。

④未来の担い手の育成を目的に始めたのが「遠山三校絆プロジェクト」である。小中学生がSDGsの視点から遠山郷の未来を見据え、自分たちが出来ることを考えていく活動をした。初年度となる今回は、「SDGsと何だろう？」という基礎的なところからのスタートだった。小学生にSDGsとは何かを伝えるために中学生が調べ・準備をし、会の進行を務めた。小学生に伝えることを通して、中学生は自らSDGsについて学んだ。また、ここに暮らす小中学生が一堂に会したことは、次世代を担うコミュニティづくりの第一歩となった。

⑤本校は約17haの広大な学校林を保有している。かつて林業で栄えた地域であり、先人が後世に森林の大切さを伝えるために学校林を残したと記されている。森を守ることが自然環境や地域の安全な暮らしを支えていることを「学有林学習」から学ぶことができた。

⑥生徒会活動の一つとして継続している取り組みに「花を贈る活動」がある。花を育てることで植物育成の良さを学び、自分たちで育てた花を地域へ届けることで、笑顔や感謝の言葉をいただき、地域への貢献を肌で感じ取る活動となった。

5. 指導方法・体制の工夫

(1) 講師などの人材確保(コミュニティスクール)

- ・学校運営協議会、自治振興センター、公民館、森林組合、社会福祉協議会、霜月祭保存会

(2) 移動手段の支援

- ・自治振興センター、公民館

(3) 費用

- ・自治振興センター、公民館、森林組合